

救急科後期研修プログラム

外傷外科など各種専門領域を基礎とした救命救急医療の施行可能な臨床医の育成を目指します。2年間の卒後臨床研修を終了した医師を対象とした、3年間の臨床研修プログラムです。専門領域としては、1) 外傷救急外科 (Acute Care Surgery) 2) 集中治療があり、うち1領域を選択してもらいます。救急医学専門医による指導体制のもと、多岐にわたる急病、外傷の診断と治療に関する知識と手技 (集中治療・侵襲的治療までを含む) を修得します。また並行して専門領域の研修を指導医のもと開始します。日本救急医学会専門医の資格を取得し、さらに専門領域の学会専門医の取得をめざします。

【研修期間】 3年間

Q 1 : 修練医の資格は？

- 1) 卒後2年以上経過した医師
- 2) 臨床研修終了者 (または同等の技能をもったもの)

Q 2 : 研修施設について

済生会横浜市東部病院 救命救急センター

Q 3 : 救急専門医修練カリキュラムの目標は？

- 1) 救急医として、基本的な救急の臨床的判断能力と問題解決能力を修得する。
 - a) 救命・救急医療 (3次救急) の初期診療と集中治療が可能
 - b) 基本的救急疾患 (1次救急) の初期診療とトリアージが可能
 - c) 救急診療に必要な処置を施行できる
- 2) 専門医として適切な診療できる基礎能力を修得する。
サブスペシャリティとしての診療技術を修得させる

Q 4 : 所属は？

救急科に所属し、救急専従医の身分 (救急専門医の資格獲得のため)

★救急科専門医試験資格について

- (ア) 救急医学会入会后、満5年以上を経過し、かつ
- (イ) 救急専従歴3年以上経過した者は、
- (ウ) 救急専門医のための試験を受けることができる。

Q 5 : 救急専門医のサブスペシャリティーは？

以下の2分野から選択

- 1) 外傷救急外科 (Acute Care Surgery)
- 2) 循環器内科・集中治療

Q 6 : 救急専門医修練カリキュラムの研修期間

3年間

★他施設にて救急の修練をしている場合は、修練経験を考慮し研修プログラムを別途設定

救急科後期研修医 (専門医) 修練カリキュラム : 具体的目標 (救急共通)

Q 1 : 具体的目標3年間の総計

担当医 (または初療医) として救急センター・救命病棟で初期・集中診療ができる。

1. 外因性救急 各10例
 - ①外傷 1. 腹部外傷 2. 胸部外傷 3. 多発外傷 4. 骨盤・四肢外傷
5. 頭部・顔面外傷 6. 脊椎・脊髄外傷 (3例)
 - ②広範囲熱傷
 - ③異物・溺水
 - ④熱中症・低体温症・その他
2. 院外 CPA (ACLS)、心拍再開後ケア 20例
3. 急性中毒 10例
4. 内因性救急 各10例
 - ① 神経系疾患 (脳卒中など)
 - ② 呼吸器系疾患 (肺炎、喘息、気胸など)
 - ③ 循環器系疾患 (心筋梗塞など)
 - ④ 消化器疾患 (急性腹症など)
 - ⑤ 腎・内分泌代謝 (糖尿病など)

Q 2 : 具体的目標 (3年間の総計) 救急手技

1. 基本的救急手技 各10例
 - ①心肺蘇生法 ACLS ②気管挿管 ③除細動 ④胸腔ドレーン挿入 ⑤創傷処置
 - ⑥骨折整復・牽引・固定 ⑦中心静脈カテーテル挿入 ⑧動脈穿刺と血液ガス分析
 - ⑨観血的動脈圧モニター ⑩腰椎穿刺 (腰椎麻酔を除く)

⑪機械的換気による呼吸管理 ⑫超音波検査 ⑬気管支鏡検査

2. 専門的救急手技 各6例

①開胸式心マッサージ ②気管切開 ③イレウス管挿入 ④腹腔穿刺・洗浄
⑤動脈カテーテル挿入 ⑥胃洗浄 ⑦消化管内視鏡検査

救急科後期研修医（専門医）修練カリキュラム： 具体的目標（外傷救急外科）

手術の基礎を習得（外科専門医レベル）することを目標とする。カリキュラムの一部は外科と協力して研修を行う。

1. 術者として最低120例 経験する

① 気管切開	10例
② 虫垂切除	30例
③ ヘルニア	10例
④ 開腹・閉腹	20例
⑤ 腹腔鏡操作	20例
⑥ 胃腸切除（吻合のみも含む）	20例
⑦ その他	10例

2. その他に助手として、130例以上を経験する。

- ① 消化管および腹部内臓（90例）
- ② 頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚,軟部組織,顔面,甲状腺,など）（10例）
- ③ 小児外科（10例）
- ④ 各臓器の外傷（多発外傷を含む）（10例）
- ⑤ 鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む；上記のうち,各分野における各種手術）（10例）